



第16回にのみや観光フォトコンテストより
佳作「桜日和」玉置 正氏

湘南にのみや 議会だより

平成23年
3月定例会
2/25～3/22

—平成23年度予算決まる—

- ▶町長施政方針に3議員が総括質疑…………… 2～4 P
- ▶予算審議と賛成討論…………… 5～6 P
- ▶一般質問で5議員が登壇…………… 10～12 P
- ▶議会トピックス…………… 13 P
- ▶町を彩る団体紹介…………… 14 P

6月定例会のお知らせ

6月3日(金)から開会の予定
本会議・委員会の傍聴できます—お気軽にどうぞ—

バランスのとれた堅実型予算 多岐に渡り議論

総括質疑

**財政規模の縮小は避けられない。
今こそ大胆な行政改革を**
原 富士徳議員

原 町民の日常生活に関わる一般会計予算の内容を見ると恒常的に経常経費率が90%を超え、23年



度も94%台と高い比率で予算が編成されている。経常経費率が75%を上回り連続すれば財政が硬化して柔軟性が失われ、80%〜85%となると新規の事業は難しく、90%を超すと財政再建団体と同様と言われている。行政評価を町民にわかり易く正確に行い、公表し予算編成時の資料とするべきではないか。

副町長 行政評価を町民にわかり易く公表していくことには異論は無い。

総合長期プランが24年度で終了する。今後の計画策定課程にも反映していきたい。



入団して5日間、初めての訓練です

原 国保会計は毎年1億円規模で拡大している。年間医療費総額が25億7千700万円、薬価代金は5億6千万円と報告されている。後発薬品利用者が30%程度に増えれば薬価代金が10%程度削減できると聞いているが、今後利用率を高める考えはあるか。

町長 二宮町での後発薬品の利用率は24%程度と推測されているが正確ではない。後発薬品を利用することで国保会計の負担が減ることは明らかで今後利用者カードなどを

配布し普及に努めたい。消防団の再編はしないが多機能消防団は検討する

原 消防団の重要性は周知の事実だが団員の補充が出来ず一部、分団では退団予定者にさらに留任をお願いしている。常備消防組織も充実してきた今日、消火活動を重視した現在の消防団を再編し多機能消防団を加えた新組織にして、多くの人に参加してもらい防災意識を高めてはどうか。

神保 南口商店街再整備として栄通り再整備調査委託料190万円が計上されているが、商店街の高齢化や後継者不足の中で活性化は図れるのか。
町長 過去に商店街主導で活性化を試みたができ

町非正規労働者に安定雇用を！ 情報化社会から子どもを守れ

神保 順子議員



なかった。今度は町が主導して進めていく。22年度に商店に対して意向調査を実施した。やる気が確認でき今年度は具体的にやっつけていこうとなった。
神保 IT化が進み、携帯電話やパソコンを利用する子ども達が増加している。ネットによるいじめや出会い系サイトなどさまざまな危険から子ども達を守るには家庭だけでは防ぎきれない。学校での指導また家庭と学校との連携を強めて取り組むことが必要と考えるが。
町長 教育委員会・学校・保護者がそれぞれに危機感を持って、できる限り

の対策を講じることが必要と考えている。
神保 過去に「ふたみ記念館」の運営について質問したが、その時町長は「基金を集めて法人化していくことも考えている」と答えている。今回法人化にならなかった理由はなぜか。
町長 「ふたみ記念館」は赤字にするつもりはない。行政で黒字運営に挑戦してみても、結論として民間や法人にお願いする時がくるかもしれない。



ふたみ記念館の内部
500円の入館料で黒字経営になるのか？

町の臨時雇用は町民の幅広い雇用の場としたい
神保 施政方針に「財源確保策として雇用の見直しを行なう」とある。雇止めや官製ワーキングプアが深刻化している中で、町は長く勤めた臨時雇用員から辞めさせるという話を聞いたが、雇用の安定確保は図るべき。また町民へのサービス低下にも繋がりがかねない。

子どもの健康施策の充実と、 地域会館のあり方を問う

三橋 智子議員



三橋 「財政の見える化」を図り、発生主義・複式簿記形式の基準モデルが注目されているが。
町長 二宮町が採用した改訂モデルでも段階的・計画的に複式簿記を導入するよう求められてい

る。町もそれに従い財産台帳などの整備を実施しており、より精緻な財産状況の公表ができるようになる。そのスタイルは国や他団体の動向を参考にし、見極めていく。

三橋 23年10月から小学校6年まで医療費助成を拡大し子育て支援が前進した。「義務教育の中学3年まで助成があれば安心だ」という保護者の声も多いが今後の拡充は考えているか。
町長 就任当時より中学3年まで拡充したいと考えていたが、財政の厳しさもあり段階的に拡大している。今後もチャレンジはしていきたい。

三橋 子宮頸がん予防ワクチンの早期取り組みは評価の声が高い。効果的に高校生の接種拡大が重要だと考えるがどうか。

町独自に接種枠を拡大

町長 23年度に町独自で高校2年生に接種、24年度には20歳の記念接種を行いフォローする。

三橋 百合が丘プール跡地売却にともない、第2公会堂移転・新設の計画がある。住民周知は十分行なわれているのか何う。

用地取得の財源はない

町長 用地取得に新たな財源支出が伴わないことを前提として調整した。地域と共に、より活用が図られる施設を建設したい。

三橋 町で五ツ浦漁場(社有地)を買い取るにあたり、海岸整備の将来構想を伺う。

町長 観光の通年型のために、海岸を確保して背後地と共に、他とは違う憩いの場としていきたい。



地域会館40年の役目を終える百合が丘第2公会堂(右側手前)

二宮町議会基本条例 制定特別委員会設置

議会の独自性・二元代表性を高めるために多くの議会で制定されている議会基本条例を二宮町に導入することを前提に、議員提案により特別委員会が設置された。

これまでの二宮町議会では全国の事例を紹介した「議員必携」町独自の「先例確認事項」「地方自治法」などの範囲で運営されてきた。課題が多様化し、地域独自の判断が求められることが多い地方自治体。二宮町でも過去の事例では対処できない問題も発生している。二宮町議会では議会活動をより円滑に進め

ることを骨子とした基本条例の制定に向け2年間を目的に検討を進める。



議会基本条例とは、地方分権の進展に伴い、議会のあり方を町民に対して宣言するもので、議会の「最高規範」といえる。

議会改革の柱として全国各地の議会が制定しているなか、二宮町議会の役割を再定義し、議会の公開度を上げ、説明責任を果たすなど、議会活性化のための運営ルールを定めるものであり、議会の責任が大きくなった現実を見据えた条例である。

▼委員長

二見 泰弘

▼副委員長

根岸ゆき子

▼委員

小笠原陶子
神保 順子
原 富士徳
桑原 英俊
添田 孝司
三橋 智子

平成23年度・予算審議

堅実な一般会計予算と町財政に重くのしかかる医療保障費
子育て支援は一步前進！

平成23年度各会計当初予算金額及び本会議採決結果

会計名	予算額	前年度比較	採決結果
一般会計	76億3,500万円	20.6%減	全会一致で可決
国民健康保険特別会計	34億5,508万9千円	6.5%増	12対1で可決
後期高齢者医療特別会計	5億8,958万4万円	7.8%増	12対1で可決
介護保険特別会計	19億6,056万円	1.5%増	全会一致で可決
下水道事業特別会計	9億5,968万6千円	0.6%減	全会一致で可決
総額	145億9,991万5千円	10.4%増	—

平成23年第1回定例議会は、新年度予算案の審議を中心に2月25日から3月22日まで開かれた。
議案は一般会計予算案と特別4会計の予算案、補正予算5件、条例制定1件、条例改正12件、用地取得1件を審議した。

予算審査特別委員会は、7議員で構成され、予算書、予算説明書等をもとに5日間の審査とふたみ記念館ほか2ヶ所の現地視察を行った。
予算審査特別委員会の構成は次のとおり。

- ◆委員長 池田宏
- ◆副委員長 原富士徳
- ◆委員 西山宗一、小笠原陶子、添田孝司、脇正文、近藤行宏

審査最終日、一般会計・国保会計・後期高齢者医療会計・介護保険会計・下水道会計について小笠原委員、脇委員が5会計の賛成討論を行った。
本会議では三橋智子、小笠原陶子各議員がそれぞれの立場から賛成の討論を行い上記の採決結果となった。



24時間対応の駅南側エレベーター
(4月下旬には利用できます！)

予算審査特別委員会

審査意見



各課の予算審査を行っていくなかで、議員から様々な要望や意見が出される。それらの要望を特別委員会の委員がまとめ「審査意見」として提出。町側はこれにそって努力することになる。

- ① 予算編成にあたり、一律の削減ではなく事業の仕分けをし、活性化を図りたい。
- ② 税金滞納解消のため収納率向上に、より一層の努力をされたい。
- ③ 総合計画等の策定にあたり、各メディアを利用し広く町民の意見を取り入れられたい。
- ④ 施設の健全な運営のため、維持管理計画及び財政計画を明確にされたい。
- ⑤ 大災害の発生が危惧されるなか、町の指導マニュアルに基づき、各地区自主防災の強化を図られたい。
- ⑥ じん芥収集運搬処理については、安全管理に留意されるとともに、経費の削減をされたい。
- ⑦ 生きがい事業団は、早期に法人化されたい。

予算に対する討論

3/22
本会議

小笠原 陶子議員 避難拠点マニュアルや 防災計画の見直し必要だ



予算審査委員会初日の11日午後は審議中に、東北関東大震災で揺れた。審査の中で、駅前町民会館やラディアンは避難拠点を確認したが、納得できる答えがない。我が町は海岸と2級河川を持つ。防災計画の練り直しが必要だ。22年度で梅沢海岸防潮堤整備基本設計委託料が執行されたが、計画が実態に即しているか検証を求む。災害時の町民は、まず自己防衛と情報だ。行政は正しい情報をスピーディに届けることが第一に求められる。今年度は総合計画策定以外に交通計画策定や、環境基本計画策定委託など、大切な計画づくりがあり、活発な住民参加を求める。子育て支援施策は、小児医療費助成事業の対象拡大、ファミリリーサポートシステムの導入、一時預かりなど一歩前進した。介護保険特別会計では地域包括支援センターが二宮町社会福祉協議会に委託される。丁寧に周知するよう要望する。

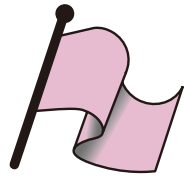
一般会計、特別会計ともに賛成。一般会計予算は、76億3千500万円。歳入は町税が昨年比1.9%減少し、20億円を割り、町民の勤労世帯の減少が読み取れ、苦心と工夫の予算だ。今まで非常勤職員の報酬月額各課ではらつきがあったが、一律12万6千円に改正され、戦力としてプロ意識で勤務すべし。



地域の防災に大きな戦力となる消防団

三橋 智子議員

震災で情勢は一変 復興と安全確保に最大努力を期待



平成23年度、一般会計予算及び4特別会計予算に賛成の立場で討論する。この予算案が上程された後、3月11日に東日本巨大地震が発生し、日本の情勢は一気に変わって

しまった。国難とも言えるこの現実を、まずはしっかりと認識しなければならぬ。地獄の苦しみに耐えている被災者の皆様の教訓を生かすためにも、わが町の危機管理や災害時の対応強化を徹底する必要がある。痛感するのは情報の正確さと伝達のスピードの必要性で、その手段の一つとして「安全・安心メール」の更なる改善と普及を図りたい。子ども手当は一部削減し復興手当にするとの報道があるように、様々な交付金等の見直しが必要。全国の被災地から一日も早く復興できるよう、心からお祈りする。

公園や海岸の観光事業やふたみ記念館の運用、商店街の復興などはいかに町民の思いを高めるかがカギとなるので町は求心力を発揮されたい。

日本が受けた未曾有の災害から早急に復興できるよう、町としてできる限りのことをしていただき、同時に町民の生活を最大限守っていく姿勢をとるようお願いする。



安全・安心メールで情報発信

議 会

で決まったこと

〔仮称〕風致公園用地取得について

二宮町土地開発公社が先行取得した〔仮称〕風致公園用地を、二宮町が取得するもの。面積4万4千673平方メートルを18億481万8千273円で取得する。全会一致で可決。



ふたみ記念館の設置及び管理に関する条例制定



生誕100年
よみがえる巨匠！！

本町出身の画家、二見利節氏の作品その他関連する資料を展示並びに保存するとともに、豊かな地域文化の形成を目的として、二宮町ふたみ記念館を設置するものとする。生誕100年を記念して平成23年10月29日開館を予定している。

〔二宮町由来の画家の

絵を展示し、町の文化向上に貢献する〕「経費節減をすべきだが、寄付を塩漬けにしてはならない」「生徒に芸術に触れる機会が与えられる」

「年間経費1千万円はかかりすぎる」等の討論があり11対2の賛成多数で可決。

条例の一部を改正する条例

● 二宮町部等設置条例改正

6部15課を5部14課に改める。企画室を政策部に改め、環境部を廃止する。1年半前ごみ処理広域化復帰に伴い、総務部長が環境部長を兼務した

が、本改正で町民生活部に環境衛生に関することと、ごみ処理広域化に関することの権限を移す。4月1日より施行。全会一致で可決。

● 総合計画審議会条例改正

委員数を12人以内から18人以内とする。町議会議員を1人から2人に増やし、新たに町の区域内公共団体等の代表者5人を加えた。行政だけでなく企業、団体などから幅広く意見を取入れ、実効性のある計画を立てる。4月1日より施行。全会一致で可決。

● 特別職員報酬費用弁償の額並びに支給方法条例改正

ふたみ記念館の嘱託員を新たに位置付けし、このものを。月額を12万6千円とする

4月1日より施行。12対1の賛成多数で可決。

● 職員の給与に関する条例改正

通勤に要する一カ月当り

の運賃等相当額（通勤手当）上限を5万5000円から3万円に減額する。

● 都市計画下水道事業受益者負担金条例改正

市街化調整区域へ公共下水道を接続する場合、現規定では、都市計画法に基づく受益者負担金の対象区域外であることから、賦課徴収を行うことができない。公平性や財源確保の観点から分担金を賦課できるようにするもの。

4月1日より施行。全会一致で可決。

● 防災会議条例改正

組織人数を会長及び委員18人以内から30人以内とする。各方面からの人数枠をはずし、行政界を超えた委員で組織し、現状に即した実効性のある防災計画を作成する。

4月1日より施行。全会一致で可決。

● 国民保護協議会条例の改正

海外からの武力攻撃等の事態において国民を保護するための「二宮町国民保護協議会」とするに「30人以内」とするに「変更するもの」ともつと幅広く関係者を募り情報を得る目的。

4月1日より施行。12対1で可決された。

この協議会条例の第2条「委員の定数は20人以内とする」を「30人以内とする」に変更するもの。

● 敬老祝金条例の改正

これまで国と町が個別に行ってきた長寿者激励訪問事業で、町は99歳の方に3万円を支給。国は100歳の方に賞状と銀杯を支給してきた。類似事業であることや、町民の要望により、99歳を繰り上げ100歳で統合するもの。

4月1日より施行。12対1で可決された。

● 小児の医療費の助成に関する条例の改正

これまで小学校3年生までだった医療費無料の助成が、小学校6年生まで拡充されるもの。ただし、入院時の食事にかかると費用など標準負担額は除く。

10月1日より施行。全会一致で可決された。

● 国民健康保険条例の改正

これまで出産育児一時金として38万円支給されていたが、42万円に増額されるもの。少子化対策の一環として継続されてきた国の政策が、今回改正により恒久化される。

4月1日から施行。全会一致で可決された。

● 国民健康保険税条例の改正

国民健康保険税の資産割算定の税率を、100分の16から100分の8に下げ町民の負担軽減をはかるもの。資産割は二宮の場合、税収として有効だがなせ削るのか。

4月1日より施行。全会一致で可決された。

★ 母子家庭等の助成に関する条例を廃止する条例

これまで母子家庭世帯に対して年4回、2千円ずつ支給されてきた助成を廃止するもの。理由は児童扶養手当を廃止する条例は、はじめ医療費助成など、ひとり親家庭への助成制度が充実されたため。4月1日から施行。12対1で可決された。



一般会計

国・県補助金等の確定や対象人員の増減、各事業予算の執行残など、精算を含め、6千986万4千円を減額し、予算総額を9億2千516万9千円とした。歳出の主なものは、せらぎ公園整備事業・図書館開館10周年事業・百合が丘保育園運営にかか

るエアコン設置やデジタルピアノの購入など。主な質疑は次の通り
問 図書館開館10周年事業とは何か特別なことを行なうのか。
答 国の交付金を充て、普段購入することのできない辞典や文学全集、大型絵本等を購入したい。

問 せせらぎ公園改修工事について説明を求めらる。
答 夏の利用をめどに、公園内に親水施設を整備していく予定。賛成多数で可決された。



水遊び場が出来るといいね！！

国民健康保険特別会計

3千385万1千円を追加し、歳入歳出それぞれを34億8千48万8千円とした。

歳出では被保険者の医療費が5千499万5千円、高額療養費が140万5千円など必要になり、前期高齢者交付金や繰入金などで補完する。

全会一致で可決された。

老人保健医療特別会計

22年度をもって事業が終了するために、119万7千円を減額し、歳入歳出それぞれを534万1千円とした。

全会一致で可決された。

介護保険特別会計

1億495万円減額し、歳入歳出それぞれを19億590万9千円とした。

主な要因は介護サービス等に係る給付費や特定入所者の介護サービスに係る給付費の減によるもの。反面、要支援者への介護予防サービスに係る

給付費は増加した。

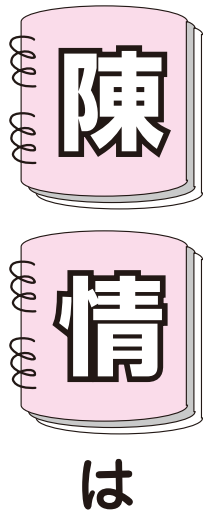
全会一致で可決された。

下水道事業特別会計

3千841万4千円を

減額し、歳入歳出それぞれを9億3千612万4千円とした。

主な要因は実施設計に係る委託料の減額など。全会一致で可決された。



どうなった？

TPP交渉 参加反対に関する 陳情

趣旨採択

提出者は湘南農業協同組合。陳情内容は関税撤廃の例外措置を認めていないTPPが締結されれば、農林水産業はじめ、関連産業への影響は必至。さらに食の安全をも確保できなくなる懸念があるためTPP交渉参加に反対する。よって国に意見書の提出を求めるもの。

「現段階では判断できないので趣旨採択」「国の動向をみて、今後議論すべき。継続審査が妥当」「二次産業を守るために意見書を提出すべき」などの討論があり、9対4で趣旨採択となった。

所得税法第56条 廃止の意見書を国に提出 することについての 陳情

不採択

提出者は平塚民主商工会婦人部。陳情内容は、白色申告事業者にも青色申告事業者と同等の措置を求め、所得税法第56条の廃止を求めるもの。

「個人の事業活動には、何の制約もなく自由に行うことが認められていく。事業者の都合により『一部変更しろ』『廃止し

る』では制度の混乱を招くだけ」

「事業主の配偶者という理由で労働者扱いされないのは不自然」などの討論があり、12対1で不採択となった。

議会事務局人事

平成23年4月1日付けにて、次のとおり異動がありました。

- (一)内は旧職名
- 田中 勝 定年退職 (議会議務局長)

- 小島 隆 教育委員会生涯学習課生涯スポーツ班長 (議会議務局庶務班長)

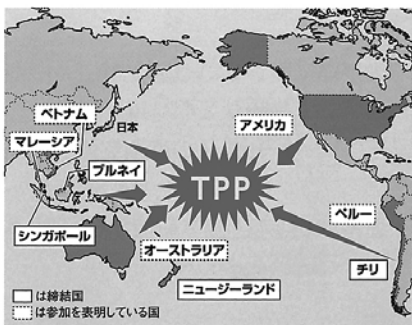
- 大野勝人 議会議務局長 (教育委員会教育総務課長)

- 和田美穂 議会議務局庶務班長 (総務部総務課庶務人事班長)

TPPとは?

TPP(環太平洋連携協定)は、従来の貿易協定と異なり、例外品目を全く認めず、すべての関税をゼロにします。シンガポール、ブルネイ、ニュージーランド、チリ、アメリカ、オーストラリア、ペルー、ベトナム、マレーシアの9カ国が締結もしくは交渉に参加しています。

交渉分野は、物品の関税撤廃にとどまらず、保険・金融などのサービス分野、知的財産、人の移動など、幅広い分野が自由化の対象となり、国のしくみが大きく変えられます。





… 町 の 考 え を 問 う …

3月10日の本会議では、5名の議員が町民の身近な問題5件を行政側に質問。この記事は本人の原稿に基づいて掲載したものを。

一般質問

平素及び災害時における 独居高齢者への対応を問う

近藤 行宏議員



近藤 今回の質問には災害時対応といった趣旨が含まれているが、独居高齢者対策に視点を当てて行いたい。個人情報保護法により本人の同意が基本ではあるが、平素から行政主導によって情報の共有が図れないか。名簿等の作成上において、町としてどの程度、把握し

ているか。民生委員及び各地区自主防災組織において、どこまで実態を把握しているか。町は確認をとっているのか。平素における孤独死を防ぐ対策は。災害時、名簿の共有なしで、どこまで円滑に対応できるのか。

町長 独居高齢者等の対策は、行政が取り組まなければならない重要な課題の一つである。健康福祉部長 ひとり暮らし高齢者の把握は、民生委員、緊急時医療情報シート、シルバー緊急通報システムなどで実施。今後は精度を高め、防災担当との連携を図る。

各地区自主防災組織との連携を深めてゆく

町民生活部長 平成18年に災害時要援護者避難支援プランを作成した。各地区自主防災組織と一緒に相互理解を深め、水準を高めながら、大規模災害時の対応に努めたい。
近藤 民生委員、地区長自主防災組織、社協役員の方等々、行政との連携を密にして、行政と地域との顔の見える関係の継続を望む。情報の共有化を行政内部で図りたい。

教育関係職員の 保健安全について問う

脇 正文議員



脇 教育委員会として教職員の保健安全をどう捉え実施しているか。また町で働く教職員と町教育委員会との関係はどうか。そして保護者との問題で教職員が悩んでいる際に町や教育委員会は教職員をどのように守り、今後教師側に立ってはどうのような教育政策を推し進

めていくのか。
教育長 教育委員会では何より心身の健康が大切と思ひ健康管理に努めている。教職員には必要であれば相談に応じている。教育委員もまた教職員の悩み解消にも努めている。保護者・教職員双方の意見を公平な立場で聞いた上で、常にどうす

ることが一番子どもの幸せになるかということに第一に考え、教職員・保護者に対して指導助言をしている。教頭等を通じ、明るく活気ある職場づくりをお願いしている。
脇 権限のない仕事といわれる教師が責任を果たす為に毅然とした態度で臨める後ろ盾が欲しい。

教育委員会が教職員を守るのは当然のこと

教育長 当たり前のことで教育委員会が自分の町の職員を守れなかったら大変なこと。

脇 もう少し現場を見て、現場の声を聞いて欲しい。先生達もつと安心して力を出せ、教育に専念できる学校教育の場を教育委員会が積極的につくり整えて欲しい。

子育て支援サービスの充実を 広くアピールせよ!!

根岸 ゆき子議員

根岸 秋からの新規事業であるファミリーサポーターにおいて、アドバイザーは重要な役割だが一人配置の予定だ。相談役や補助要員の人材が今後必要になった場合の確保を望む。また、事前協議が前提となるが、在住以外の



プレハブを増築して行う一時保育

在勤の方も対象にする、軽い風邪程度なら預かるなど、基本的には来るもの拒まずという姿勢が望ましいと思うが如何か。
健康福祉部長 アドバイザーは保育資格を持つ方と考えている。基本的に一人予算分とし、相談体制などは社協の中で協力しあつてほしい。会員の関係で制限をどうするかは進めながら協議する。
町長 需要の心配、行政の限界、他根本の解決策も必要だが前向きにやる。
根岸 一時保育において、病後児保育の検討も行うべきだが如何か。次世代育成支援行動計画には3

モデル的の事業を通じて今後検討

健康福祉部長 病後児保育はお金と場所含めて大変難しい状態だが検討は必要だ。民間参入の無い中でまず百合が丘保育園で着手するのはモデル的の意味がある。広がりについては今後の課題となる。
根岸 複数のサービスによって安心して子育てできる環境が整う。虐待予防や育児不安の解消につなげるよう、よりよいアピールをして欲しい。

男性介護者と孤独死対策を

小笠原 陶子議員



高齢者が自由に集う
一色コミュニティセンターのサロン

小笠原 今年1月、町内で介護疲れの息子が父親を絞殺した事件があった。男性介護者へのきめ細かい支援が急務だ。

男性介護者の特性は、理論的で規則正しく辛抱強い。律儀に目標設定し、達成に努力するが、ストレスの発散と介護の割り

切りが不得手。その特質を理解し、助け合うことが大切だ。重層的な相談場所、上から目線ではない、ともに悩み、語らう場が求められている。また、町の孤独死対策についての普及啓発と直接的な施策の充実が望まれる。いつでも相談できる24時間受付窓口が必要だ。

23年度は65歳以上全員アンケート調査を実施

健康福祉部長 町の65歳以上の独居世帯は約800、高齢者夫婦世帯は約1千300となり、高齢化率は現在26・9%。百分

が丘や富士見が丘、中町、川勾地区では30%超だ。

この状況を踏まえ、①民生委員による見守り②緊急医療情報シートの作成、75歳以上で独居世帯506名が登録③平成23年度新規事業で65歳以上の高齢者全員に健康自立度調査を実施する④地域コミュニティによる見守りとして高齢者が自由に集うサロンも、3地区社協、4カ所で開催中。

緊急通報システムには、コールセンターの保健師や看護師が24時間体制で日常生活における健康状態のほか、あらゆる相談に応じている。

一宮町でも住宅リフォーム助成制度の実施を！

浅賀 一伸議員

浅賀 今は多くの住民が財布を固く縛り、消費は冷え込んだまま、経済回復の出口が見えずにいる。

そこで、その効果の大きさから全国で180近い自治体を取り入れている「住宅リフォーム助成制度」を提案する。この

制度は地域住民が、地元

住宅リフォームを依頼した場合、施主に一定の工事費を助成するというもの。具体的には畳替えや網戸設置、トイレ改修等々小規模でも良く、多様な希望に沿えるようにする。

地域住宅産業はすそ野の広い経済波及効果を持つため地域経済活性化が期待できる。町内で循環

型の地域経済もねらう。町税も納め易くなり、町財政も潤うことになる。町としてはどう考えるか。

研究し、効果が明らかになれば補正予算でも



町長 二宮町においてもこれは良いという感じがした。耐震補助やバリアフリー、太陽光発電設置など助成は行ってきたが更に広めることになる。ジョイカードで助成という仕方も。工務店に電話をしたり、担当課とも研究をした。「確かにリフォームの希望は多く需要はきている」とのこと。クリアすべき問題もあるが、やるとなったら補正予算を組んでもやる。

浅賀 入札困難な業者や高齢者等にも配慮し、公平に利益となるよう願う。

3月11日に発生した東日本大震災に際し、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

一日も早い復旧、復興を願い、二宮町議会として20万円の義援金を送らせて頂きました。

今回の震災はM9の地震と津波によるものでした。二宮町においても東海地震についても以前から懸念されていますが、町公共施設については新耐震基準以前（昭和56年5月に建築された建物が基準）の耐震化がまだ終わって

ていないなどの課題もあり、早急に対応していかねければならないと考えます。災害時にひとりでも多くの被災者を出さないよう、町議会としても町民の命を守るために、今後も積極的に町に提案をしていきます。

1市2町ごみ処理 広域化に向けての動き

剪定枝資源化施設 整備スケジュール

現在、ごみ広域化に向けて着々と準備が進められています。

3月22日の議会全員協議会にて剪定枝資源化施設建設に向けての説明がありました。

平塚市・大磯町・二宮町の剪定枝量を年間5000トンをチップ化していく予定です。

議会では類似施設である町田市剪定枝資源化センター見学を4月26日に予定しています。

建設までのスケジュール	H23	H24	H25	H26	H27
ごみ処理広域化基本協定締結					
用地購入					
整備工事					
施設稼働					

議会 トピックス

「えっ！ 震度5強？」

東日本大震災が起きた時、議会では予算審査特別委員会の開会中で、担当課への質疑が行われている最中だった。あまりの大きな揺れに委員会は中断、議員全員慌てて外に飛び出した。

その後予算委員会を再開したが、地震のこ

とが気になり、各委員とも気もそぞろ。早々に予算委員会を切り上げて、控え室のテレビをつけて震災の大きさを知り驚愕した。速報では二宮町は震度5と報道された。後日、予算審査特別委員会の消防課に対する質疑の中で「今回の地震で二宮町は震度5強と報道された。横浜市に住む知人から心配の連絡をもらったが、他市町の状況と比較すると二宮町の震度には疑問を持つ」という質問があり、それに対し、「二宮町の場合、震度計が消防署の横に設置されているが、そこは地盤が緩いために揺れが大きい」との答弁があった。

震度計の設置は県の管轄になるとのことだが、適正な震度の計測が出来ない場所への設置には問題があるとも思えるが、皆さまの体感震度はいかがでしたでしょうか？

富士見が丘2丁目祭囃子保存会

新しい法被で一致団結！



富士見が丘二丁目祭囃子保存会は、同町内会により発足し、今年で創立27年目を迎えます。中里祭囃子保存会・元町北祭囃子保存会の指導を受け、大山囃子系を伝承している団体です。

当初、数名の子ども主体活動から始まりましたが、現在は母子共同参画の40名越えの規模となりました。私たち富士見が丘二丁目祭囃子保存会は、民俗芸能保存と、地域の方々とのコミュニケーション、活性活動だけではなく、親子間の共通した話題の提供や次世代への地元愛着心を育んで貰える場の提供にも心掛けています。

最近「太鼓を通じて、親子間の会話に弾みが出た」「地元に着用を持って、親子間、親同志、子ども同志の強い絆も生まれているように感じます。今後も活動を通し、後世に地元愛と絆を伝承させていく活動を推進していきますので、地域の皆様のご支援ご協力に感謝すると共に、今後も行政を含め、皆さまからのご

活動の主な内容

- 7月 町内会夏祭り 八坂神社夏祭り
 - 10月 二宮町民俗芸能大会
- 輪番による各祭典への参加も実施

- 議会だより編集委員会
- 委員長 神保 順子
 - 副委員長 添田 孝司
 - 委員 浅賀 一伸
 - 委員 原 富士徳
 - 委員 近藤 行宏
 - 委員 二見 泰弘

町を彩る団体紹介

民俗芸能団体をシリーズで紹介します！



元町北祭囃子保存会

(大山囃子)

祭りばやし大好き！

元町地区の祭礼を盛り上げるため、また古き良き伝統を保存継承するために、昭和54年当時の地区役員が発起人となり発足されました。当初は大人が中里祭囃子保存会の指導を受け、小学生へと教習を広げていきました。北新道東・西、妙見の3地区の小・中学生を主体に地域外も含め現在30名程度の子どもと大人10名の会員がおります。練習は元町北防災コミュニティセンターで年間を通じて行っています。主な活動は元町八坂神社の夏祭、川勾神社の祭礼、民俗芸能のつどいに参加するほか、地区の納涼祭やふれあい広場、老人施設のイベントなどで祭囃子を演奏しています。山車での囃子は通常、大太鼓に縮太鼓2つ、篠笛と摺り鉦の5人で演奏します。基本の曲目は宮昇

殿・きざみ・屋台・治昇殿・神田丸・四丁目・仁羽となっており、通しで演奏すると15分位の時間がかかります。写真に写っている旗は発足30周年を記念して作成したものです。ここにいる子ども達がいずれ将来の指導者として、保存会を40年、50年と継承していくことを願い、太鼓を叩く面白さや楽しさを伝えていきたいと思っています。お祭りに興味のある方、経験のある方もない方も大人も子どもも、参加を募集中です。

編集室だより

今議会の予算委員会審査中に東日本地方に大惨事が起こり、忘れることのできない議会となりました。いまでも余震が起り、不安な毎日が続いています。

議会だよりは毎号、作成時期が同じで、表紙の題材として取り上げる町の行事も開催時期が重なり、毎年同じような写真になり頭を悩ませます。今回も中学校の感動的な卒業式写真を掲載する予定でしたが、肖像権や防犯上の問題があり、保護者の許可を得ないと掲載できないなど、結果として町行事や風景写真等に限定してまいります。みなさま良いアイデアはありますか？